

吟道月報

No. 43
51.25

碩心会

(一)、正面に向つて正しく礼をすることが
審査員に対して礼をすることになりま

昇任審査を受ける心得など

会長 三井 西云立山

新しい会員も増えたこの際、一般向きな審査を受ける時の心得注意事項と言つたようなものを書いて見ましよう。

おぼり言つて敬場で自分の吟と馴れた詩と仲間の前で吟詠する積りでやればよいのですが、子供の時からいやな思ひをした試験だ、知らない偉い審査員の前でやるのだ、何とかうまく吟じてやろう、失敗したりどうしよう等が積り積つて堅くなり、自分の本当の吟力が出ないと言つのが、ほんとうのところでしょう。然し、課題吟に対する各自の練習度、練習回数にそれに比例して、本番に発揮されることは尙違ひありませんから、繰返し、繰返し練習することが第一です。

す。

(二)、机(又はマイク)の前に立つやいなや急いで吟詠に入らないこと、むしろかむろに姿勢を正し、マイクの正面で距離を計りましよう。

(三)、正しい姿勢とは、直立して目は正面より少し高いところに注ぎ用いないこと。

肩の緊張をとき、両手は自然に横に垂れ、親指と中にして軽く握るか自然に伸ばす、足は左右或は前後に少し開いてもよろしい。服装は清潔なものと着、背広服は必ずボタンを一つかけること。

(四)、吟題、作者名を言つてから充分に息を吸い込みます。吸い終つたらもう一度肩の力を抜き落す。そして一秒位静かに息を捨てたからそれに乗るように吟声を出すことです。吟題の始まりから吟の第一声まで六〜七秒が正しいとされています。ですから息はゆつくり充分

に吸うことです。

(五)、吟題を言うことは、すでに吟に入っているのです。「せきしやくたん」はその前に處理して吟題、作者名のあとにせきは吟詠中のせきと同杯、肉き苦しく気分を損じます。

(六)、初位以上の審査には敬本を見ないで吟ずることになっています。暗記するまで練習することが大切ですが見なくては歌えないと言うのは、むしろ自分の目のやり場がないのさかばっているのです。少し高い所に目を注げば人の顔は見えませぬ。

初二段の方は見てもいいのですが、正しい姿勢養声のために敬本を左手に持つて、左上に支え、目は必要あれば見ることにして正面の上を見なくせをつけて下さい。

(七)、途中でつかえても笑わないこと、と忘れは誰にでもあります。むしろそれで後の吟が乱れないように心掛けて下さい。

(八)、出番の頃になると動気が打ち足が震えて来ます。これは大部の方がそうなので、何回も深呼吸をして下腹にうんと力を入れて下さい。動気をおまり気にしないことが大切です。私も出番の二番前位まではそうですが、この方法で直前には大体落付いてくるようになります。

た。
いづれにしても、言うは易く行うは難しいです。練習度と場馴れしか解決してくれるものはありません。大いに下腹に力を入れて練習して下さい。

以上

県本部関係

全国吟道大会に参加の感激

千葉 劍風

第六九回全国吟道大会は、二月一日(日)白銀の札幌市北海道厚生年金会館で行なわれた。この大会は、北海道本部創立三十五周年記念として、この地で行なわれたものであり、全国から代表が参集した。

神奈川県本部としては、百数十名の派遣団を編成したが、当会からは、沼田洗風先生ほか十名が、この編成に参加し、神奈川県本部詩の大合吟に加わり、大熱吟を行なった。大合吟は誠に壯観とも言うべきもので、満場われんばかりの拍手であった。

日程は三日間で、その間に白老のアイヌの人達の踊り、民芸品の見学、小雨降る二日の札幌市内大通りの雪まつりの観賞、洞爺湖、定山溪の二夜にわたる派遣団のホテルでの懇親会等があったが、終始和やかな雰囲気の中にも統制のとれた団体行動のよさがみられ、思い出の多い楽しい旅行となった。

往復の日航ジヤンボ機内では、あちろこちろから石川文山作「富士山」の吟「仙客来り遊ぶ」が爆音の中にきかれ、雲上の気分 いやがうえにも挙っているのが、高度一七、〇〇〇メートルの机上の緊張感と入りまじって、面白く、また誠に愉快な情景であった。

以上

◎ 本年度高段者昇格審査会は三月二十一日、平塚市（会場未定）で行なわれます。

碩心会本部関係

初吟会盛大に行なわれる

恒例の新年初吟会は、一月十八日（日）逗子海岸京急ビーチセンターで行なわれた。

当日は雲一つない好天に恵まれ、早朝から出足よく、参加者二百四十名をこえる盛況で、当会始まって以来のものとなった。

本日は下山口、富士見、吟甫の三支節の方々のチームワークのとれた手際の良い運営によつて、すばらしい初吟会となった。

会の後半には各支部の芸術味豊かな、いろいろの余興が演じられ、いずれも甲乙つけがたく、あまりのうまさに会場のあちろこちろから、ためいきすらもれるような熱演ぶりであった。

全く近來にない立派な楽しい初吟会となつて諸先生方も終始ニコニコの情況

とあり、この日の感激をもつて、今年も張切つて吟道に精進しましょう。

(総務 劍風記)

◎ 五十一年春季早伝審査は三月十四日(日)午前十時より蓮子市図書館ホールで行われます、約百八十名の方々が対象となります。

課題吟は次の通りで六段は或は変更になるかもしれませぬ

初段 九月十日/32 海南行/38 の自由課題

二段 富士山/36 大柳公/39

初段 金州城/60 九月十三夜陣中作/46

三段 漫吟/62 製桶/45

四段 春日山懐古/36 塚下の歌/46

中伝 天意を知ら/44 近江八景/60

五段 和歌心なき/42 和歌行く川の/46

六段 俳句古池や/36 俳句荒海や/36
契伝 加範は前回通りの要領

会員の異動

退会会員

44 一色又節 平谷しほ 安山

新会員

沼向又節 高橋平八郎 沼向三の三の次 電話(71)0745

吟甫又節 三塚 保 横須賀市浦賀町の55の43 電話(42)一六三二

吟甫又節 森 長五郎 横須賀市上町の50 電話(23)六八四四

総務初進終

巫風先生愛吟集レコード第三集完成について

巫風記念館では、巫風先生愛吟集のオ三集を今回完成し一枚、二〇〇円で希望者に分けることになりました。

会員で希望の方は各支部長に至急申し込んで下さい。

各支部長は二月十五日の理事会の日に、総務まで希望総数を文書で申し込んで下さい。とりまごめて注文します。

なおA面は川中島、城山、本能寺等七題
B面は 兼兒行、天草洋に泊す等四題です。
また申し込みは今回限りです。念のため

(総務)

50年度(1月1日~12月31日) 収支報告

収 入 の 部		支 出 の 部	
49年度よりの繰越	259,674	県本部費	139,200
県及会の総合本部費	251,160	会催し等の補助支出	67,710
許証料割戻金	392,500	昇任期所轄への謝礼	212,000
吟道代	24,750	外部への出吟料	20,100
松井先生テープ頒布	12,600	吟道代総本部へ支払	40,000
教典取扱手数料	10,000	コピー反月報用紙代	11,825
計	950,684	借上料	2,250
預金利子は 通帳未記入の爲 来年度まわしに致します。		事務用品及備品代	18,590
		中元及歳暮	30,740
		理事会の茶菓代	9,500
		県理学会の電車賃	3,750
		香典反見舞金	5,000
		通信費反連絡費	4,145
		バッジ反テープ予備購入	4,000
		計	568,810

差引残額381,874円は、来年度へ繰り越しました

以上 会計 千葉

各段位別全員数表 昭和五十一年一月現在

地区	遷子		遷			山			葉			大船			計						
	遷子 A	遷子 B	建設	銀詠	山の根	堀込	一色	長柄	下山口	富士見	上山口	滝ノ坂	敵前	葉警		跨前	大船 A	大船 B	C	板知	戸塚
奥池	10		1		4	8	4								1	10	1	2	2	2	41
甲依	9		5	11	4	17	12	11	11	4	1					4	7	1	1	4	129
初三段	5		5	11	4	17	9	1	2	2			8			4	4	1	7	4	103
無谷征	2			6	3	9	1	1	2						3	5	1	5	6	7	32
初三段																					20
無谷征	2			6	3	9	1	1	2												68
無谷征																					23
無谷征																					45
計	26		17	17	7	28	26	13	24	6	13	11	11	4	18	15	2	2	17	12	373
考																					181

三段 二一名 四段 五八名 五段 四一名 六段 四九名

遷子地区 一〇四名
葉山地区 二〇五名
大船地区 六四名